

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立羽田保育園		
事業所連絡先	〒	144-0043	
	所在地	東京都大田区羽田4-11-1	
	TEL	03-3741-1597	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	9月	19日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	9月	19日
訪問調査日	2025年	9月	22日
評価合議日	2025年	10月	6日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。</p>		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念） こどもたちは、たくさんのお愛を受けながら育ちます。家庭や地域の人たちと信頼関係を築き、安全で安心できる環境を整え、こどもたちひとりひとりの生きる力を育てます。</p> <p>（方針） ・人のかかわりのなかで、人に対する愛情と信頼感そして人権を大切にする心を育てる。 ・のびのびと心豊かに自己を発揮して、生活できるようにする。 ・こどもたちが「今日保育園楽しかった！」と思えるように日々の保育を充実させていく。 ・家庭や地域との連絡を密にして、子育てを共に行い成長を喜び合う。 ・こどもが生活と遊びの中で食べることを楽しみ、成長していくようにする。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さを発揮し、組織の一員として支え合いながらチーム力を高められる人。 ・常に自らの人間性や専門性の向上に努める人。 ・子どもの人権を尊重し、最善の利益を考慮した保育を志せる人。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添い、子どもの人権を尊重した保育を行うこと ・豊かな感性と愛情を持って、一人一人のこどもに関わること ・保護者と信頼関係を築き、真摯に保護者の気持ちを受け止め対応すること

調査対象	保育園に通っている園児127世帯148人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。
利用者総数	148
利用者家族総数(世帯)	127
共通評価項目による調査対象者数	127
共通評価項目による調査の有効回答者数	70
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	55.1

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」51.4%、「満足」42.9%の計94.3%であった。

自由意見では、「綺麗で清潔に保たれている。」「育てた野菜を食べ、屋内や体育室で思いっきり遊べると子どもに聞きました。」「職員の対応が丁寧で自分の子どものように可愛がってくれるので安心して預けられます。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気や怪我」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中14問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	67	2	1	0
「はい」の回答は95.7%、「どちらともいえない」の回答は2.9%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「悪天候な日も園内でたくさん身体を動かす遊びをしてくれるので、身体の動かし方を学んでいます」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	67	3	0	0
「はい」の回答は95.7%、「どちらともいえない」の回答は4.3%であった。 自由意見では、「園で体験したことを家に帰ってからアレンジしている姿を見るとそう感じます」「お家ではできない、やらせてあげられない大胆な遊びをさせてもらいとてもありがたいです」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	66	2	2	0
「はい」の回答は94.3%、「どちらともいえない」の回答は2.9%、「いいえ」の回答は2.9%であった。 自由意見では、「手作りのおやつや珍しい料理、季節感のあるものなどもあり毎回美味しくそうです」「子どもに合わせた要望に対して真摯に向き合ってくれて助かっています」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	4	3	0
「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は5.7%、「いいえ」の回答は4.3%であった。 自由意見では、「たくさん土と触れ合う機会を作ってもらっている印象です」「当園は園庭とホールが2ヶ所あり、体育室でも思いきり遊べるのでとてもありがたいです」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	55	9	1	5
「はい」の回答は78.6%、「どちらともいえない」の回答は12.9%、「いいえ」の回答は1.4%、「無回答・非該当」の回答は7.1%であった。 自由意見では、「柔軟にスポット保育を使えて助かります」「いつも遅くなってしまうても配慮いただきとても助かっています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	66	3	1	0
「はい」の回答は94.3%、「どちらともいえない」の回答は4.3%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「先生たちの配慮がとても感じられます。怪我などをしてもきちんと対処していただきありがとうございます」「きちんと管理されているように感じます」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	58	9	3	0
「はい」の回答は82.9%、「どちらともいえない」の回答は12.9%、「いいえ」の回答は4.3%であった。 自由意見では、「年度当初にスケジュールを出してくださるので対応しやすいです」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	66	4	0	0
「はい」の回答は94.3%、「どちらともいえない」の回答は5.7%であった。 自由意見では、「いつも元気に笑顔で対応いただけてます」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	68	2	0	0
「はい」の回答は97.1%、「どちらともいえない」の回答は2.9%であった。 自由意見では、「常に掃除やごみを集めている先生を拝見します。お漏らしをした際にも下洗いをしていただいております」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	62	6	2	0
「はい」の回答は88.6%、「どちらともいえない」の回答は8.6%、「いいえ」の回答は2.9%であった。 自由意見では、「いつも活気がありフレンドリーです」「疲れていても、ネガティブな対応になるような姿を見たことないのでプロだなと感じています」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	67	2	0	1
「はい」の回答は95.7%、「どちらともいえない」の回答は2.9%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「怪我をした後の応急処置もしてくれ、お迎え時に丁寧に報告してくださってます」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	13	2	5
「はい」の回答は71.4%、「どちらともいえない」の回答は18.6%、「いいえ」の回答は2.9%、「無回答・非該当」の回答は7.1%であった。 自由意見では、「まだ経験していません」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	6	0	1
「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は8.6%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「子どもたちの人数が多く大変な中、一人一人に寄り添って対応していただけています」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	64	4	0	2
「はい」の回答は91.4%、「どちらともいえない」の回答は5.7%、「無回答・非該当」の回答は2.9%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	63	6	1	0
「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は8.6%、「いいえ」の回答は1.4%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	65	2	2	1
「はい」の回答は92.9%、「どちらともいえない」の回答は2.9%、「いいえ」の回答は2.9%、「無回答・非該当」の回答は1.4%であった。 自由意見では、「思ったことを言うすぐに他の職員にも伝達されている印象です」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	49	13	5	3
「はい」の回答は70.0%、「どちらともいえない」の回答は18.6%、「いいえ」の回答は7.1%、「無回答・非該当」の回答は4.3%であった。 自由意見では、「提出書類のことを相談したらすぐに保育サービス課の電話番号を教えてくださいました」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	園の理念や方針を明示して職員や保護者の理解を深めている 園では「羽田保育園業務マニュアル」を職員一人一人に配布し、年度当初の職員会議では、理念や方針、園が目指していることなどについて確認している。マニュアルには理念や基本方針も書かれており、職員がいつでも確認できる仕組みを構築している。入園オリエンテーションでは、保護者に向けて重要事項説明書を用いて詳しく説明している。入園後は、年度当初の保護者会でパワーポイントなどを活用し、わかりやすく説明している。	
	経営層は組織として目指すことを伝えてリーダーとしての役割を果たしている 経営層は、理念や基本方針に基づく取組を全職員で進めるにあたり、職員面談シートに課の目標や理念を踏まえて今年度の園目標、園長の思いなどを記し、一人一人の職員に面談で伝えている。また、組織の一員として一人一人が力を発揮できるように職員間の信頼関係を構築し、働きやすい環境構築に努めている。園長は、理念や園目標など機会を捉えて職員に伝え、コミュニケーションを大切にしながら職員が自主的に行動できるように導き、職員の行動にはリーダーとして責任を持つことでリーダーシップを発揮している。	
	重要な案件についての全体合意のプロセスが課題解決に繋がっている 園における重要な案件の検討や決定は、園のマニュアルに定められた手順に沿って行われている。各クラスで事案を検討し、その意見をリーダー会に持ち寄って組織としての方針を決定するという、現場の意見を反映するボトムアップのプロセスが確立されている。リーダー会で決定された重要な事項は、その内容と決定経緯が職員会議の場で全職員に報告され、組織全体での情報共有と共通理解が図られている。すぐに伝えなくてはいけない案件は朝礼で周知している。保護者への周知については、掲示に加え口頭で経緯や根拠を示し伝えている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者アンケートや職員面談等で意向などを把握し、検討課題を設定し対応している</p> <p>保護者ニーズの把握のため、保護者会や行事、保育参観などの後にアンケートを実施し、保護者との日々のやり取りから情報収集をしている。玄関に意見箱を設置し、意見や要望を記入して投函できるようにしている。例えば、保護者会のアンケートで楽しかった、次は子どもと一緒にやりたいなどの要望から、次の保護者会に繋げている。職員の意向についてはクラス打合せや面談、職員会議、非常勤職員打合せ、リーダー会などで把握し、その内容から園運営にどのように反映していくかを検討している。</p> <p>地域の福祉ニーズを把握するため、近隣の関係機関と連携し情報収集に努めている</p> <p>地域の福祉の現状について情報を収集するために、地区別園長会議や地域保育施設会議に参加し、情報交換を行うなどしてニーズを把握している。例えば直近では、外国籍の親子がどのくらいいて、どのようなことに困難を感じているか、どのような支援があるかなど情報を収集している。各ニーズや現状を踏まえ、職員の専門性の維持向上、安全・安心な環境の整備、地域の保育所等の連携、在宅子育て家庭への支援等の課題を抽出している。</p> <p>区の方針を踏まえて園で計画を策定し、全職員で計画を推進していく体制を整えている</p> <p>区の理念や計画等を踏まえ、園の現状に沿った中期計画書を策定し、中期計画を踏まえて具体的な単年度計画を策定している。中期的な視点が入った重点計画として、防災、環境、ヒヤリハット、地域支援、園内研修、人材育成を挙げ、策定した計画を推進するためプロジェクトと係を設け、それぞれが役割分担を担い、計画・実施・振り返りを行い、取組と実施状況、反省と残された課題を検討している。職員一人一人が園全体の課題を自分ごととして考えられるように計画を推進していく体制を整えている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

マニュアルに職員が守るべき法、規範、倫理などについて明記し、周知徹底に努めている

守るべき法や規範、倫理について、全職員への周知と理解を深める取組として、「羽田保育園業務マニュアル」に、全国保育士会倫理要綱、職員の服務などを掲載し、職員一人一人に配布するとともに、年度当初の職員会議で確認している。年度当初に個人情報の管理及び取り扱いについて確認し、プライバシーポリシーへの署名を通じて全職員に法・規範・倫理を周知している。区の保育指針である「こころを育てる大田の保育」に付随する自己評価チェックリストを用いて、職員一人一人が子どもの人権尊重の視点から自らの保育実践を振り返っている。

苦情解決や虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている

利用者である子どもたちの権利や尊厳を守るために、組織全体で虐待防止対策に取り組んでいる。年度当初から保育方針や大切にすべき「子どもの権利」に関する確認を行い、セルフチェックリスト活用したり、園内研修をしたり、定期的に保育を振り返る機会を作っている。これにより、利用者に対して不適切な言動や虐待のリスクが未然に防がれている実績が確認され、組織的な予防策が整えられている。虐待通報はマニュアルを作り、関係機関と連携する体制を整えている。

保育の専門性を活かして地域交流及び地域支援の充実に取り組んでいる

保育の専門性を活かして、育児相談、緊急一時保育、園庭開放事業、育児応援券事業をしている。また、子育てひろば羽田と連携し、地域向けに看護師の保健に関する話、栄養士の食事に関する話を実施している。地区別園長会や定期的に地域会議を開催し、地域の保育所と連携し、情報交換を行っている。地域での課題が生じたときは関係者が集まり、連携して動く関係性が構築されている。透明性の高い組織運営のために福祉サービス第三者評価を定期的に受審し、結果を公表している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>考えられるリスクを洗い出し、マニュアル作成や訓練などを行い、対策を講じている</p> <p>園で起こりうるリスクを洗い出し、優先順位の高いリスクとして、怪我、事故と順位づけ、安全対策を講じている。毎月、地震や火災を想定した避難訓練を行っており、いつ起こるか分からない災害に対応できるよう時間帯や避難場所を変え実施している。今回の訪問調査前には、集中豪雨による浸水被害があり、その対応において日ごろの訓練の成果から職員のチームワークの良さが確認できた。集中豪雨への対応はスピード感が大切なことから水で膨らむ土のうを購入するなど現在の対策の見直しを図り、危機意識をより一層高めている。</p> <p>大規模災害に備え、地域の特性を踏まえた事業継続計画を作成している</p> <p>大規模災害に備え、子どもと職員の命を守り、発災後も保育園運営の継続を図ることを目的として地域の特性を踏まえたBCPを作成している。大規模災害時を想定した福祉避難所開設に向けての準備が整えられ、職員はマニュアルに沿って開設訓練を行っている。CPR訓練・AED訓練・アレルギー対応訓練などは、非常勤も含む全職員が参加している。毎月の避難訓練についても正規職員以外に、非常勤、支援員、委託業者、送迎に来た保護者など、その場にいる人には全員参加してもらっている。</p> <p>個人情報保護への意識を高め、自己点検や理解と共有に努め、保管・管理を徹底している</p> <p>園で取り扱う情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、年度当初の職員会議で説明し確認している。各情報、文書の保存年数は決まっており、それに従い保存、廃棄している。子どもや保護者の情報は各ファイルに整理し、鍵のかかる書庫で保管している。職員、保護者、実習生に至るまで、園に関わる全ての人を対象に「プライバシーポリシー」を用いて利用目的を明示し、署名を得ることで個人情報保護の重要性についての理解と遵守を徹底している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

組織の能力向上を図るためのシステムを整え、適材適所の配置が進められている

保育園の正規職員の採用については、区の採用・配置システムのもとで安定した人員確保を実施している。「大田区保育園人材育成指針」に基づき人材育成基本方針及び人事評価制度が定められ、在職年数や役職ごとに保育士に求められる資質等が明記されており、職員に書面で周知している。配置にあたっては、各職員の経験年数等を踏まえるとともに、自己申告書の活用や職員面談を通じて一人一人の意向を確認しており、人材育成を意図した取組となっている。

職員一人一人の成長を支える取組として人材育成計画を策定している

大田区人材育成指針により人材育成評価制度が定められており、園長と職員との個別面談を年2回実施し、キャリアデザインシートを活用しながら職員自身の将来像と必要な経験・研修を共有している。新人職員に対しては職場外研修とOJTを組み合わせた育成の機会が設けられている。また、新人育成を担当する職員には「OJT研修」への参加機会を設けるなど、指導者自身の学びも支援している。区や関係機関が主催する研修にも職員を派遣し、専門性の向上に繋げている。

園内の様々な活動を効果的に働かせ、学びとチームワークの促進に取り組んでいる

職員の得意なことが発揮できるように行事の係やプロジェクトメンバーは希望を取って決めている。また、新たな分野にも挑戦できるようにやりたいことや学びたいことも確認し、実現できるようなサポート体制を作っている。研修で得た知識や技術は、個人のものにとどまらず、参加者が作成する研修報告書をもとに、職員会議で報告されている。リーダー会では、各クラスのリーダーがクラスでの要望・気づきを持ち寄り、話し合い、業務改善に繋げ、組織力の向上に取り組んでいる。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 4～6月(1期)の怪我が多かったことを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、「4～6月(1期)の怪我3割減を目指す」ことを掲げた。昨年度の重点施策として「年度当初は、職員の異動もあり、子どもたちの様子を見ている状態でスタートするので、コミュニケーションをしっかり取り、連携を密にしていく」「子ども人数が多いので、移動はできるだけ少人数で行う」「安全面では、棚の角など怪我が多いところはラバーをつけるなど怪我防止に努める」ことに取り組んだ。 その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。 その要因としては、「職員一人一人の意識を高め、しっかりと声をかけ合えた」「安全チェックリストで毎月チェックをし、危険個所の点検をした」「移動もできるだけ少人数で行った」ことが上手く機能し、達成に繋がったことと考えられる。 こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、安全チェックリストを継続しながら、ヒヤリハットや事故報告書の活用をしっかりと行う取組に発展させている。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 4～6月(1期)の怪我が多かったことを重要課題として怪我3割減を目指し、目標を達成したことは大いに評価したい。実際の事故・怪我報告をもとにグラフ化し、客観的な指標をもとに考察を行い、職員一人一人の安全に対する意識を高めている。 今後も事故・怪我を的確に分析し、安全の向上に繋げ、組織的な取組として発展することに大いに期待している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「園庭あそびの充実」「遊びたい時に遊べる園庭」「異年齢交流ができる園庭にしたい」ことを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に「曜日で遊べるクラスを決めていたので、遊びたい時に遊べる園庭にする(朝、夕の時間帯は毎日)」「6ヶ月以内に園庭の環境を整え、子どもが主体的に遊べるようにする」を掲げた。
 昨年度の重点施策として、「公開保育を行い、園庭環境を見直し、子どもが主体的に遊べる園庭づくり」「異年齢が自然と交流できる環境づくり」に取り組んだ。
 その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。
 その要因としては、5月から取り組み、11月の公開保育で講師の先生から異年齢交流が自然とできている、子どもたちがじっくりと遊べているといった講評を受け、子どもたちが主体的に遊べる園庭として上手く機能し、達成に繋がったことと考えられる。
 こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、朝・夕だけでなく、子どもが遊びたい時に遊べる環境づくりを継続し、遊びが継続できるように発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「園庭あそびの充実」「遊びたい時に遊べる園庭」「異年齢交流ができる園庭にしたい」ことを重要課題として捉え、遊びたい時に遊べる園庭として園庭の環境を整え、子どもが主体的に遊べるようにすることを目標に公開保育を行い、園庭環境を見直し、子どもが主体的に遊べる園庭づくり、異年齢が自然と交流できる環境づくりに取り組み、目標が達成できたことは大きな成果といえる。クラスで時間を区切ることなく、遊びたい時に遊べる園庭として異年齢児交流が日々自然な形で行える環境を目指し、園庭遊び・玩具の整理を行い、子どもが主体的に遊びたいときに遊べる環境づくりを行っている。今後も課題を抽出し、具体的な目標を設定して取り組んでいくことに期待している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>希望者が入手できる、区のホームページやしおりに園の情報を掲載している</p> <p>利用希望者などが入手しやすい媒体で園の情報を入手できるように、大田区のホームページでは入園等の手続き、空き情報、緊急一時保育、保育園紹介などの情報を掲載している。マイ保育園登録者にはお知らせを配信して園に足を運んでもらえる機会を作っている。外国籍の方向けに英語、中国語で表記されている重要事項説明書を用意し、必要に応じて使用するほか、翻訳機を活用し、内容を説明できるようにしている。隣接する子育てひろばと連携をとり、栄養士や看護師の専門性を生かした話をする会を設け、ニーズに合った内容を考えて行っている。</p> <p>見学会を開催し、園の特徴を丁寧に伝えている</p> <p>利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合に備えてホームページで見学会の日程を知らせている。予定した日程以外でも随時見学を受け付けている。見学会では、保育園の保育理念、保育方針、園目標などのほかに、各クラスの保育の特徴や子どもたちが好きな遊びなどについて具体的に環境を見てもらいながら紹介している。地域子育て支援の一環として園の遊具で遊ぶ会や砂遊び、園庭遊びなどを行っている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>新入園児オリエンテーションをホールで行い、重要事項を説明して署名を貰っている</p> <p>行政より内定連絡後に園に入園に必要な書類を取りに来てもらい、3月中旬の土曜日に新入園児保護者に向けてのオリエンテーションをホールで行い、重要事項説明・園における約束事・健康面・給食について等の説明を行っている。質疑応答を行い保護者の意向を確認し、個人情報保護を含む重要事項説明書の同意書に署名を貰っている。オリエンテーション当日参加できない保護者や途中入園の場合には個別で説明を行っている。オリエンテーション時に出た保護者の意向や質問等は記録し、オリエンテーションファイルに残している。</p> <p>入園前面談は個別に行い、入園初日は親子で過ごす等安心できる環境を整えている</p> <p>2月下旬に入園前面談を行い保育士は、保護者の記入してきた書類を基に家族構成や保護者の就労・子どもの成育歴などの詳細を一つ一つ確認を行い、所定の用紙に記録している。面談終了後は職員会議で共有を図り一人一人の子どもに合わせた保育に繋げている。0～2歳児クラスでは担当制を行い、保護者や子どもの不安軽減の為に慣れ保育を行っている。基本は1週間として保護者の就労状況や要望に合わせたものとしている。初日はクラス的环境に少しでも慣れもらえるように、食事までの半日を親子で過ごす等安心できる環境を整えている。</p> <p>転園をする子どもには「元気でね」カードを渡し、担任からの激励を行っている</p> <p>公立園に転園の際には保護者に書類に記入をして貰い、児童票や健康カードを転園先に送っている。私立園には書類を送ることができないために、保護者に自分で心配な点を伝えることができるように説明の必要があると考えている。転園をする子どもに担任からのメッセージ入りの「元気でね」カードを渡し激励を行っている。小学校へ送る児童重要録は、行政内の交換便で送り、支援シートは直接説明を行いながら、手渡ししている。転園や就学で園から離れる子どもへの継続した支援の方法を考慮することに期待したい。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
保護者の記載してきた子どもの情報や、ニーズに合わせた保育を行っている 入園前面談で保護者の記載した行政で定めた調査票を基に子どもの心身状況等や生活状況等を丁寧に聞き取り把握している。調査票等の書類は児童ごとにファイリングして事務所に施錠保管している。情報を基に子ども一人一人の発達状況や保護者のニーズに配慮し、保育計画を作成して、保育を行っている。子どもの姿を日々の日誌や月週案に記載して、朝・夕の保護者との会話や1・2歳児や細やかな連携が必要な子どもの連絡帳や、子どもの姿や情報を把握し定期的な個人面談により、振り返りを行い保育に繋げている。		
全体的計画を基に大切にしたいことの確認を行い、各担任で保育計画の作成を行っている 全体的計画は3月に園長・副園長が中心となり、子どもを取り巻く環境の変化などにより見直しが必要な際にはリーダー会議にて検討している。年間計画は子どもの姿を捉え、担任間で大切にしたいことを確認し、年齢や発達に合わせて年間指導計画や月案・週案を立てている。1・2歳児が3歳になるまでは個別の月案・週案を作成して、配慮の必要な子どもや医療的ケア児については、専門機関等と連携を図り個別の計画を作成し職員会議で共有を図っている。個人面談の際には園での姿を伝え、保護者の思いを確認し、個別の月案に反映させている。		
子どもの情報については園内屋礼やクラス屋礼にて、職員間の共有を図っている 毎日クラス内で職員間の共有を図るために屋礼を行い、連絡事項や翌日の保育の確認などを行い計画の内容等も検討して保育を行っている。月に2回ある職員会議の時間の1回の1時間をクラス会議として、子どもから離れてじっくり検討できる時間を設けている。子どもや保護者の状況については、園内屋礼で共有化を図り、遅早連絡簿に記入をして引継ぎを行っている。園内研修PTの計画により定期的に園内研修を行い、今年度計画をした「すくわくプログラムのチャレンジしてみようやればできる」により一人一人の姿を確認しながら子ども理解を深めている。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>職員に園独自の業務マニュアルの中で個人情報の取り扱いについてのルールを伝えている</p> <p>入園前オリエンテーションの重要事項説明時に個人情報保護についての説明を行い、同意を得ている。療育施設など他にも通所している子どもの情報を得る際には、保護者の了承を得ている。職員には園独自の業務マニュアルの中で個人情報保護の取り扱いについて知らせ、年度初めに全員が読んで署名している。職場体験に訪れる中学生やインターンシップの大学生・実習生等に個人情報保護について知らせ、誓約書に署名して同意を得ている。児童票等個人情報の書類は、事務室の鍵のかかる場所に保管しシステムへのアクセスは、パスワードにより管理されている</p> <p>子どもの羞恥心に配慮して着脱は3歳児より男女別の場所で、行っている</p> <p>1・2歳児クラスでのおむつ交換や着脱の際にも他から見えることが無いように衝立を使っている。3～5歳児クラスのトイレは個室となっている。着脱は3歳児クラスより、男女別の場所での着替えを行い羞恥心に配慮している。子どもの自尊心に配慮して、お漏らしなどの際には隅で仕切りを用意して、他児から見えないようにしている。身体測定や健康診断の際にも、男女別で事務所でを行い、パーテーションで見えないように配慮している。</p> <p>園内研修を定期的に行い、子どもの人権について話し合う機会を設けている</p> <p>園内研修を定期的に行い、子どもの人権について職員で話し合う機会を設けている。子どもの気持ちを尊重して「ちゃん・君」をつけて名前を呼んでいる。不適切な対応とは子どもの気持ちを考えずに職員が自分中心で事を進めてしまう事と考え、子どもと向き合う際にはゆとりをもつことができるように職員間で声を掛け合い、応援の依頼ができるような体制を取っている。虐待については外部研修に参加した職員からの報告により共有を図る。他機関との連携をいつでもとれるような体制を構築している。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>適切な行動ができるよう職員は各種マニュアルを理解し、遵守しながら保育を行っている</p> <p>園では、大田区共通マニュアルを含め、保育、職員、災害、安全管理、保護者などに分けて「羽田保育園マニュアル」を作成し、職員一人一人に配布して活用している。「羽田保育園マニュアル」の他、行事や保護者会関係、プロジェクト等に分けてファイルし、業務の標準化を図っている。年度当初の職員会議等では、職員間で読み合わせを行い、全職員で「羽田保育園マニュアル」の内容を確認している。マニュアルは、年に一回1月に見直し、2月に更新している。変更があった場合は、その都度変更点を周知している。</p> <p>マニュアルは全職員がいつでも見られるように共有し、見直しがされている</p> <p>「羽田保育園マニュアル」は、職員一人一人が持っているため、疑問や迷った時などにすぐに関いて確認できるのでそれぞれが活用している。また、パソコンでもデータ共有し、すぐに確認できるようにしている。園の基本事項やマニュアル・手順書に沿ってサービスが実施されているかについては、リーダー会議で、各クラス見直しをしたものを持ち寄り、確認している。また、リーダー会議では運営面の検討事項や苦情対応なども話し合い、スピーディな対応をするとともに、業務の標準化につなげている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>1・2歳児クラスは少人数グループ保育を行い主体的に活動できる環境作りを行っている</p> <p>子どもの姿は入園時の面談で確認をした書類を基に、子ども一人一人の姿を共有して関わり方を担任間で検討し、日々の保育を行っている。1・2歳児クラスでは、5～6人ずつのグループに分け、クラス内を棚などで仕切り、グループ毎に分け子どもが安心して過ごすことができる環境作りを行っている。少人数で過ごすことにより、子どもと職員の間関係の構築を図り、一人一人を把握して個別月案を立て個々の発達に合わせた保育ができるようにしている。玩具は子どもが手に取りやすい位置に置き数を用意して主体的に遊ぶことができる環境を作っている。</p> <p>年間異年齢児計画を作成して交流の機会を設け互いに尊重しあえる関係作りを行っている</p> <p>異年齢児で関わり合いを広げ、子ども同士互いを認め尊重できる関係を構築することを目的とした、3～5歳児クラス混合の「あさりっこ」と言う異年齢児の交流の機会を年間通して計画している。5歳児はお神輿を作り、園庭を担いで練り歩く「あさりっこまつり」や秋のお楽しみ会・3月のお別れ会を行っている。また園庭やホールでも2クラスが合同で遊ぶ機会を多く設けている。他の国籍により生じる文化や習慣の違いには、保護者からの思いを受け止め保育者が寄り添うことにより、子どもたちも違和感なく受け入れることができるような配慮をしている。</p> <p>子ども一人一人の特性を捉え、個に合わせた配慮を行っている</p> <p>配慮の必要な子どもに他児と同じ経験ができるように声を掛け、無理なく誘っている。クラス集団が大きいためクラス内に落ち着けるスペースを用意するなど配慮し、クラス内にいることができない時には事務室で過ごし、落ち着いてクラスへ戻る。散歩時の帰りたくない子どもの気持ちに寄り添い、事務所にいる職員が応援に行くなど個々に合わせた保育を行っている。発達の過程で生じるトラブルには、トラブルが起きてしまった際には、双方の子どもの気持ちを聞きながら受け止め、解決方法を一緒に考え、双方の保護者には謝罪と共に状況を伝えている。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には健康観察を行い、保護者と子どもの様子を確認して日々の保育に繋げている</p> <p>家庭での生活から園生活がスムーズに過ごすことができるように、朝の受け入れ時に前日の様子を保護者に聞きながら健康観察を行い、1・2歳児クラスでは連絡帳を基に体温や排便・朝・夕食・睡眠時間を確認し、3～5歳児クラスでは健康チェックカードを基に、睡眠時間や朝食の確認を行っている。前日の体調不良や寝不足・子どもの気持ちの苛立ち等、子どもの様子により一人一人に合わせて保育を変化させている。</p> <p>基本的な生活習慣の大切さを新入園児オリエンテーションで看護師が、伝えている</p> <p>基本的な生活習慣の大切さを新入園児オリエンテーション時に看護師が丁寧に伝えている。またえんだよりやクラスだより、1・2歳児の保護者会でも伝え、送迎時に保護者との会話により連携を図っている。着脱は1歳児クラスより少しずつ行い、トイレトレーニングは個々の状態に応じながら2歳児ごろに行い、箸は5歳児から始めている。保育者側から押し付けるのではなく、子ども自身がやってみようとする気持ちが引き出せるような言葉かけを行い、達成感や満足感が味わえるようにしている。全体周知の必要な際には、職員会議で報告を行っている。</p> <p>子どもの様子により生活時間を考慮し5歳児クラスは就学に向けての移行を計画している</p> <p>子どもの様子により前日に眠りが足りない場合には、食事時間を調節して早くに午睡に入れるようにしている。年齢の幼い子どもで午前寝が必要な場合には、午前のおやつ前に短時間部屋の隅で行っている。また午睡時に早く目覚めてしまった年齢の大きな子どもには、布団で少しゴロゴロしてみんなが目覚めるまで待つように話している。1歳児クラスでは室内で静かに遊んで待ち、時として多目的室を利用することもある。5歳児は就学に向けて、12月から午睡時間を短くして、1月より午睡を無くす予定でスムーズな生活リズムの移行を計画している。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園内研修で検討して子どもの遊びが広がり自主的に遊びこめる環境を、整えている</p> <p>子どもが自主的に遊ぶことができる環境づくりの為に講師を招き園内研修を行っている。各クラスの在園児人数の多い本園は、一人一人がじっくり遊びこめる環境として玩具の種類別のコーナーを設置している。好きな場所で玩具を手に取り邪魔されることなく遊びを継続することができる。お迎え等で遊びが中断される場合でも自分の名前を付け、取り置き次の日にも継続して遊ぶことができるようにしている。散歩に出かけることを拒否する子どもには、目的を伝え意思を確認し本人の気持ちを大切に事務所や隣のクラスで待つことも可能となっている。</p> <p>集団活動に主体的に取り組み事ができるように朝の会で活動内容を知らせている</p> <p>3～5歳児クラスでは、日付・天気・休みの子どもの確認・活動の内容等を、ボードも使い視覚からも1日の生活の見通しが持てるように子どもたちと確認をする朝の会を行っている。5歳児クラスでは午後のおやつ後に次の日の活動を知らせ、期待を持ち登園ができるような取り組みを行っている。集団活動を通して同じ経験をすることで、楽しさの共有や人との協調性を学ぶことができると考え、30人と言う大きな集団の為に時にはホールや園庭に分かれ少人数で集中して落ち着いて遊ぶことができるよう配慮もしている。</p> <p>保育士と一緒に繰り返しの言葉や応答的な関わりを行い言葉に対する感覚を養っている</p> <p>絵本等の読み聞かせを通じて、言葉の面白さや物語に興味を持ち想像する楽しさを知らせている。1・2歳の年齢の小さな子どもの一人一人の身振りや指差しや喃語に保育士が応答的に答えることや年齢や個々の発達に応じて、わかりやすくはっきりと話すことで言葉に対する感覚を養っている。公園へは固定遊具で遊ぶ・自然に触れる等目的により場所を変えている。季節に応じて木々の変化や虫探し、実を拾って来て制作に使うこともある。また近隣の農園に春にさつまいもの苗を植え、秋に収穫するなど季節を感じるができる取り組みをしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが興味や関心を持ち、楽しく参加できる形式として伝統行事を知らせている</p> <p>日本古来の伝統に触れることを意識して、近年家庭内で触れることが少なくなっている伝統行事を大切にしている。由来を伝え、大人が意識する事で日本の四季に応じた行事を子どもたちに知らせる機会だと捉えている。子どもたちが理解しやすく楽しめるものを、担当した職員が趣向を凝らし、節分やひな祭りを3～5歳児クラスでは集合形式として楽しんで参加できるものとして、豆まきには食物アレルギーや誤嚥等を防ぐために、新聞紙を豆としてするなどの配慮を行っている。またパネルシアターを使い子どもたちが興味や関心が持てるものとしている。</p> <p>子どもたちが中心として行う「あさりっこまつり」をやり遂げる喜びを味わっている</p> <p>地域活性化と相まって子どもたちにお祭りの楽しさを味わう事ができるように、5歳児クラスが中心となり毎年「まつり」の開催を行っている。子どもたちはお神輿作りや縁日ごっこの商品作りに、精を出し当日を迎えている。他クラスの子どもの見守る園庭で、お法被を着て円陣を組み思いをつにして、神輿を担ぎ練り歩いている。前日に係分担当した店舗で一人一人が売り手になり、縁日ごっこを行いお祭りの終了となる。自分たちが中心となりクラスのみんなで盛り沢山の事をやり遂げることの喜びを、味わっている。</p> <p>親子競技参加の協力依頼をして子どもたちが楽しく参加できるような取り組みをしている</p> <p>子どもたちの普段の姿を膨らませ行事として取り組んでいる。保護者参加の行事は、「お楽しみ会」「運動会」で親子で楽しいひとときを過ごすことを目的として計画をしている。運動会では親子で共に楽しい体験してもらうことを意識して、親子競技参加の協力をお願いしている。競技内容を事前に知らせ、家庭に於いて話題に触れ当日に楽しく参加できるような取り組みを行っている。子どものみで行っている行事についても当日の子どもの様子を、クラスだよりや送迎時に保護者に知らせ成長の様子を伝えている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>マットの上でくつろぐことができる2歳児室にて、保育をしている</p> <p>延長保育の時間帯は日々固定の非常勤保育士1名とシフトの常勤保育士1名で、保育をしている。2歳児クラスにて保育を行い、夕方の疲れている時間帯の為マットの上でくつろぎながら遊べる環境を作っている。玩具は各年齢にあった順番専用の物を用意して、普段とは違う遊びを楽しめる時間帯としている。引継ぎはクラス名簿を使い、担任から順番保育士に引継ぎ、順番保育士が延長保育士に引継ぎを行い、その日の連絡事項や子どもの姿を口頭で保護者に伝えている。</p> <p>遅い時間の保育となるために1対1でスキンシップを図る保育を、心掛けている</p> <p>延長保育の補食は18時15分から始めている。補食は夕食に響かないようなビスケットやせんべい等軽食なものを提供している。スポット延長保育の利用は、当日の17時までの電話で受け付けているが、その時間以降の連絡の延長保育児は、おやつを用意ができない為に連絡のない残留児などと一緒に1歳児室で順番保育士が保育を行い、おやつを終了後に2歳児室で合流している。保護者の就労の都合により突然のスポット延長保育となり、遅い時間の保育に不慣れな子どもたちの心を癒す為に1対1でスキンシップを図ることを心掛けている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>常に同じ席で落ち着いて食事ができるように行っている</p> <p>1歳児で体の小さい子どもには、背もたれや足置きを用意して、姿勢よく食事に向かうことができるようにしている。どの年齢も落ち着いて食べられるように席を固定し、子どもを待たせないように配膳後に席に誘導している。3～5歳児クラスの担任は子どもと一緒に指導食を食べ、食具の取り扱い等知らせている。配膳はご飯と汁は、各クラスで子どもに合わせた量を提供している。</p> <p>行事食は各園の栄養士が、趣向を凝らして考えた季節感の食事を提供している</p> <p>調理室の配膳棚の下部に食物アレルギーのある子どもの食事の配膳を行い、上部には医療的ケア児のブレンダーを使った食事の配膳を行っている。食物アレルギーある子どもや宗教食の提供が必要な子どもには、個別のトレイを使い、マニュアル通りに調理師や保育士で確認を行い対応している。献立は区立保育園統一の2サイクル献立となっている。味付け、野菜の切り方、盛り付けなど1サイクルでの反省を基に2サイクルで生かしている。行事食は各園の栄養士が行事にちなんで考えた季節感のある盛り付けにも工夫を凝らした、独自の食事を提供している。</p> <p>3～5歳クラスでは野菜を育て、栄養士のライブ調理等で興味や関心を引き出している</p> <p>実物の食材を見たり、そら豆の鞆むき等食材に触れる機会を持ち興味を持てるようにしている。3～5歳児クラスでは庭や庭横のフェンスの中でズッキーニ・パプリカ・きゅうり・なす・ピーマンを育てている。収穫した野菜は調理室で調理し、栄養士による子どもの前でのライブ調理を行い、興味や関心を引き出している。5歳児は近隣の神社で田植えに参加させてもらったり、農園に出かけ春にさつまいもの苗を植え、秋に収穫をしている。収穫したさつまいもは、調理室で蒸かしてもらい、それを潰してスイートポテト作りを行っている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>保育士と看護師が連携を図り、子どもに自分の体を守ることの大切さを知らせている</p> <p>保育士と看護師が連携して、クラスに必要な健康教育を行っている。年齢や発達に応じて絵本等の媒体を使い、視覚から面白く楽しい内容の提供に努めている。保育園での安全なルールや手洗い・生活リズム等子どもたちが自分で自分の体を守ることの大切さを、興味を持って参加できるように知らせている。事後には看護師が作ったポスターをクラス前に掲示して、保護者にも子どもたちに伝えて事がわかるように知らせている。また警察の人に来てもらい3歳～5歳児に向けて交通安全教室を開催して、道路の歩き方や横断歩道のわたり方など知らせて貰っている</p> <p>医療的ケア児の保育は保護者を通じて専門機関と連携を図り、対応している</p> <p>医療的ケア児の主治医による意見書を基に園長・看護師が保護者と月1回以上の面談を行い、健康状態やケア内容の報告・評価・受診時の様子・今後必要とされるケアの対応について確認をしている。保護者の意向を確認して、受診の際に担当看護師が同行して医療機関との連携を図る事もある。保育はクラスにて他児と一緒に過ごし、食事時に担当看護師による支援の元、みんなと同じテーブルで食事をしている。2名の常駐看護師は互いに情報共有を図り、ケア等の対応に変化が生じた場合には、職員会議で職員への周知を図っている。</p> <p>看護師は午睡時に各クラスをラウンドして、子どもの健康維持を図っている</p> <p>SIDSの予防について新入園児オリエンテーション時に、午睡時の子どもの呼吸や顔色を見て分間隔で確認をしていることを、保護者に伝えている。注意喚起のポスターを園内掲示して、新入園児の1歳児クラスの保護者には、午睡時の子どもの写真を見せ、園での予防対策を伝えている。コロナ期以降、看護師は午睡時の健康観察のために各クラスのラウンドを、継続している。特に体調不良児への症状の変化等の経過観察を行い、保健日誌に記録して子どもの健康維持を図っている。感染症の発生は事務室前の保健ボードに掲示やICTを使い配信している。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況や個々の事情に配慮した、支援に努めている</p> <p>保護者の就労状況により急な残業によりスポット延長保育が必要となった場合は、当日の17時までの連絡により受け入れ、連絡が17時を過ぎてしまう場合でも、補食の提供ができないことを伝え、受け入れている。土曜保育については、前日の14時30分に職員間で土曜保育児の確認を行う為にその時までの連絡をお願いしているが、園の対応が可能な限り受け入れている。保護者の個々の事情については、昼礼等で職員間の共有を図り、子育ての大変さを共有し「一緒に手伝います」という姿勢で保護者の思いを聞き、個々の事情に配慮した支援に努めている</p> <p>保護者同士が楽しく交流が深まる趣向を凝らした楽しめる場を、設けている</p> <p>保護者懇談の時間に、5歳児クラスでは就学に向けて小学校の校長先生からの講和・4歳児クラスでは普段子どもたちが遊んでいるクラブで遊ぶ・3歳児クラスでは子どもたちの興味を持っている携帯電話を段ボールで作り・2歳児クラスでは保護者自身、自分の話をしよう・1歳児クラスでは簡単レシピ試食会を催し栄養士より味噌玉の作り方教習等、趣向を凝らし保護者同士の交流が深まり楽しめる場を、設けている。子どもの事だけでなく大人が話をする機会があり良かったとの感想もある。保護者同士が共同で過ごせる場となり参加率も多くなっている。</p> <p>保護者の気持ちに寄り添った声を掛け、信頼関係の構築をしている</p> <p>保護者に毎月えんだよりやえいようだより・健やか子育てだよりを配信し、玄関にある検食台の扉に子どもたちの人気メニューのレシピを「きのこの香ばしい香りが好評のメニューです」等書いて保護者がいつでも取れるように置き保護者養育力向上を図っている。保護者の疲れている様子を見て声を掛け、個室で話を十分に聞いたことにより気持ちを滔々と語って貰え、保護者との距離が縮み、信頼関係の深まりを感じている。また各クラスだよりの配信を行い、職員紹介の欄を設け、共通話題によりコミュニケーションを更に深く信頼関係の構築を図っている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子育て広場や図書館・公園等公共施設を利用してルールやマナーを知る機会を設けている</p> <p>5歳児は図書館へ出かけ、本を借りるなど公共施設利用のルールやマナーを知る機会を設け、その場にあった行動がとれるように援助している。隣接する子育て広場の3階にある体育館でドッジボールを行う事もある。近隣商店街の八百屋さんへ出かけ、お月見用の飾りの梨やさつまいも等を購入するなど地域の方との交流を図っている。いつも出掛ける公園は4か所あり散歩マップを作成して行先までのルートの確認を行っている。散歩中に地域の方々と挨拶を交わし、警察の方に教えてもらった道路の歩き方を子どもたちと確認しながら散歩を楽しんでいる。</p> <p>園を訪れた人や小学校や水族館へ出かけ、様々な人と触れ合う機会を多く持っている</p> <p>近隣の保育園とは、隣接する子育て広場の体育館でドッジボールやリレー等を一緒に楽しんでいる。子どもたちは園に来た職場体験の高校生や中学生・子育て支援員研修・見学実習・保育実習生等と触れ合う機会を多く持っている。5歳児は一日学校体験で小学生と一緒にかけっこや、国語の勉強として線をなぞるなどの体験をし入学への期待を胸に抱いている。4・5歳児合同で借り上げバスに乗り、品川水族館へ出かけ水の中の魚やイルカショーを見てインストラクターの言動に歓喜の声を上げるなど園の職員以外の様々な人との触れ合う機会を多く持っている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	園の力を活用して地域事業に取り組み、地域に根付いた保育園づくりに取り組んでいる	
内容①	地域に根付いた保育園づくりを使命と考え、地域の子育て家庭に向けて園の行事へのお誘いや園内で玩具を使って遊ぶ・園庭解放等様々な取り組みを行っている。地域に向けた子育て情報誌「わっしょい」を発行して絵本の紹介や園庭解放や見学会の日程・園や公園での遊ぶ日程や内容を知らせている。また隣接する子育て広場と連携して看護師から保健に関する話や栄養士による食事に関する講座を開くなど園の持てる力を活用して地域事業に取り組みリピーターも多い。園の子どもたちは遊びに来た親子と触れ合い、地域の一員として関わり合いを持っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	事故・怪我報告をもとにグラフ化し、客観的な指標をもとに考察をしている	
内容②	園は、怪我につながるようなリスクのある場所をチェックしたり、ヒヤリハットでリスクを共有したりし、安全対策を講じてリスクの軽減に努めている。提出された事故・怪我報告書については、時期や場所、怪我の種類などをデータ化し、傾向などを分析している。実際の事故・怪我報告をもとにグラフ化することで、客観的な指標をもとに考察を行い、受診につながるような事故を軽減するとともに、職員一人一人の安全に対する意識を高めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが自分の気持ちをきちんと伝え、周りの大人が受け止め尊重する等、個の権利を尊重した保育を行っている
	内容	職員間話し合いの中で大切にしていることは、子どもを真ん中に置いて考える事としている。保育士がとった対応や室内環境・園庭環境など一つ一つを丁寧に読み解き、子どもにとってどうかに視点を置き考えている。健康教育の中でも「自分の気持ちをきちんと周りの人に伝えることの大切さ」を知らせている。どの年齢の子どもにも「今どうしたいか？」を聞き、個を尊重する保育を心掛けている。医療的ケア児も同じ仲間という視点に立ち「どうしたら他児と同じ経験ができるか」を考え個の権利を尊重している。
2	タイトル	子どもたちが興味関心を持ち、好奇心を持って遊びに向かえるような場や環境を整えている
	内容	昨年度は園庭保育を充実させたいと言う職員の思いから「園庭遊び」をテーマに学びあっている。異年齢児交流が自然な形で行える環境を目指し、園庭・玩具の整理を行い、子どもが主体的に遊びたいときに遊べる環境づくりをしている。今年度は心が動く運動遊びをテーマとし、「大田区」のマークが忍者に似ているとの子どもの言葉から様々な遊びが忍者修行に発展している。子どもたち考案のお手玉修行では、体のバランスを取りながら体幹を鍛える遊びをしている。子どもたちは、忍者から届く手紙にドキドキワクワクしながら忍者修行を楽しんでいる。
3	タイトル	良好な人間関係のもと協働意識をもって保育に従事することを推進し、職員が主体性を持ち一体感のあるチームワークが育っている
	内容	園は質の向上に向け、様々なプロジェクトに取り組み、良好な人間関係のもと協働意識をもって保育に従事することを推進している。保護者支援についてもチームワークを発揮して取り組み、利用者調査からも保護者との信頼関係構築や全体的な満足度など高い評価を得ている。職員自己評価結果では、職員間でのコミュニケーションを大切に良好な人間関係を構築し連携強化に繋がっていることが窺える。集中豪雨による浸水被害の際には、その対応において職員のチームワークの良さが確認でき、職員が主体性を持ち一体感のあるチームワークが育っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の学びへの意欲と能力を高め、育成強化に繋がるより一層の取組に期待したい
	内容	質の高い保育を展開するために、職員一人一人の資質及び、全職員の専門性の向上を図っている。公立園として新人職員の配置や人事異動による職員の入れ替わりがあるなか、大田区人材育成基本方針を基に人材育成に取り組んでいる。計画的に進められている採用に伴い、新人職員の育成には力を入れて取り組んでいる。中間層が少なく、ベテランと新人の職員構成のなか、若手職員の悩みに対する先輩職員の助言、保育を語り合う機会などをより一層推進し、若手職員がチャレンジする機会や自己研鑽に励む意欲を引き出すことに期待したい。
2	タイトル	リスクマネジメントの観点からヒヤリハット情報を増やしより一層のリスクマネジメントの強化に向けた更なる推進に期待している
	内容	園の安心・安全面の強化については、安全計画などを整備し、計画的に訓練などに取り組んでいる。また、事故・怪我報告書については、時期や場所、怪我の種類などをデータ化し、傾向などを分析している。一方で、ヒヤリとしたこと、ハットしたことについては、報告件数が多くはない。リスクマネジメントの観点や意図の共有のためにも、より多くのヒヤリハットが出てくるような様式の工夫や集計方法の見直しなどを行い、職員一人一人の危険予知能力の向上など、より一層のリスクマネジメントの強化に向けた更なる推進に期待している。
3	タイトル	今後も更に子どもの意欲や主体性を大切に様々な食育に取り組むとともに、子どもが楽しく食べる様々な経験の積み重ねに期待したい
	内容	子どもたちの心や体が豊かになるように気持ちに寄り添い、子ども自身が気持ちを伝え受け止めることを大切に職員が一丸となり色々な取組をしている。食育の中でも農園に出向きさつまいも植えや近隣神社での田植え、おにぎり作り・餃子の皮でのピザ作り・スイートポテト作りなどのクッキングや、栄養士によるライブ調理などにも子どもの声を反映している。今後も更に子どもの意欲や主体性を大切に様々な食育に取り組むとともに、異年齢交流による会食など、子どもが楽しく食べる様々な経験の積み重ねに期待したい。